

おとなりさんは外国人!

企画編集発行 / 浜松市多文化共生センター(運営:公益財団法人浜松国際交流協会)
〒430-0916 浜松市中区早馬町2-1 クリエイト浜松4階
TEL:053-458-2170 FAX:053-458-2197 Email:info@hi-hice.jp

飯田町上組
自治会編

地域の外国人との交流のきっかけづくりに

浜松に住んでいる外国人とおしゃべりしてみた!



飯田町上組自治会のみなさんと外国人講師

2021年11月27日(土)のよ
晴れた日の午後、浜松市南区の飯田町
上組自治会会館に約20人の皆さんが
お集まりになりました。
いつも通りラジオ体操や軽い運動で
体を動かした後、自治会役員の鈴木
一志さんから「今日は、ブラジルとフィ
リピンの方をお招きしました。海外の
文化についてお話を聞いてみましょ
う。」とおしゃべり会がスタート。お二
人は、浜松国際交流協会(HICE)
から派遣された講師、岡
田シモネさん(ブラジル
出身)と只尾ジェニ
ファーさん(フィリピン
出身)です。

自治会役員のみなさま、ぜひ

出前講座

浜松市多文化共生センター

ご利用ください



かずし 鈴木一志さん
飯田町上組自治会役員

ただお 只尾ジェニファーさん
フィリピン出身



岡田シモネさん
ブラジル出身

出前講座って?

出前講座の様子は?

どんなことを話すの?

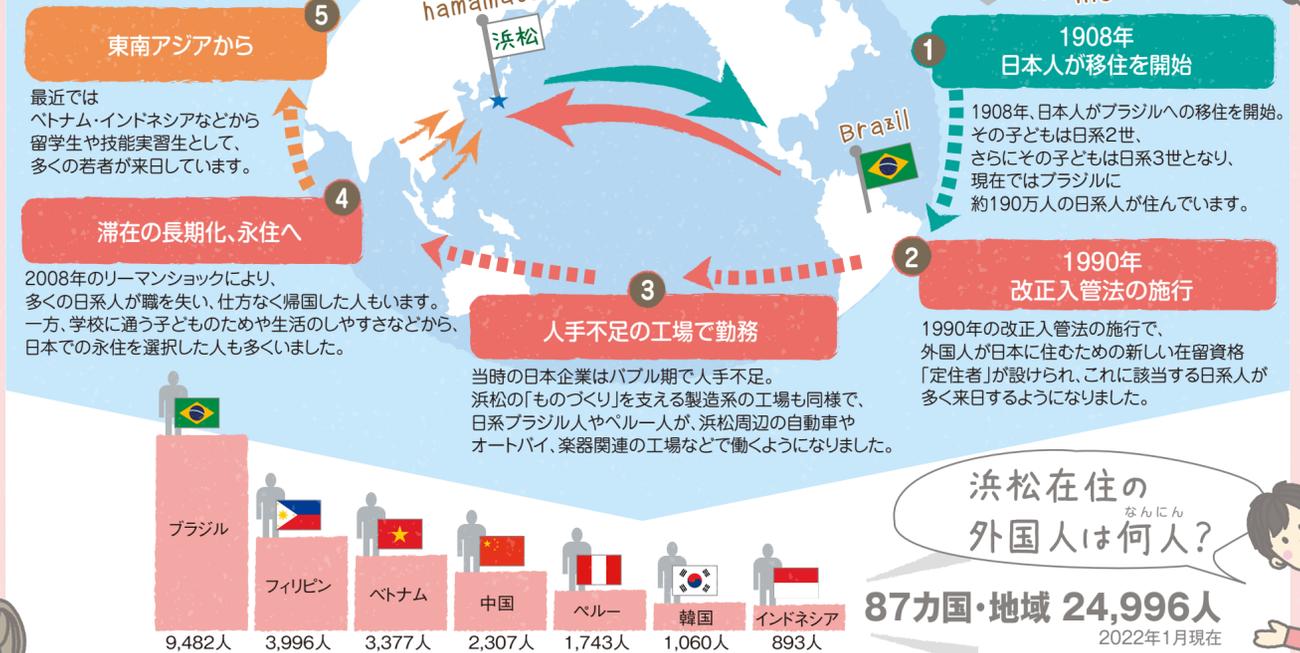
外国人とおしゃべり?

次のページへ

なぜ浜松に外国人が多いの?

きっかけは?

~history~

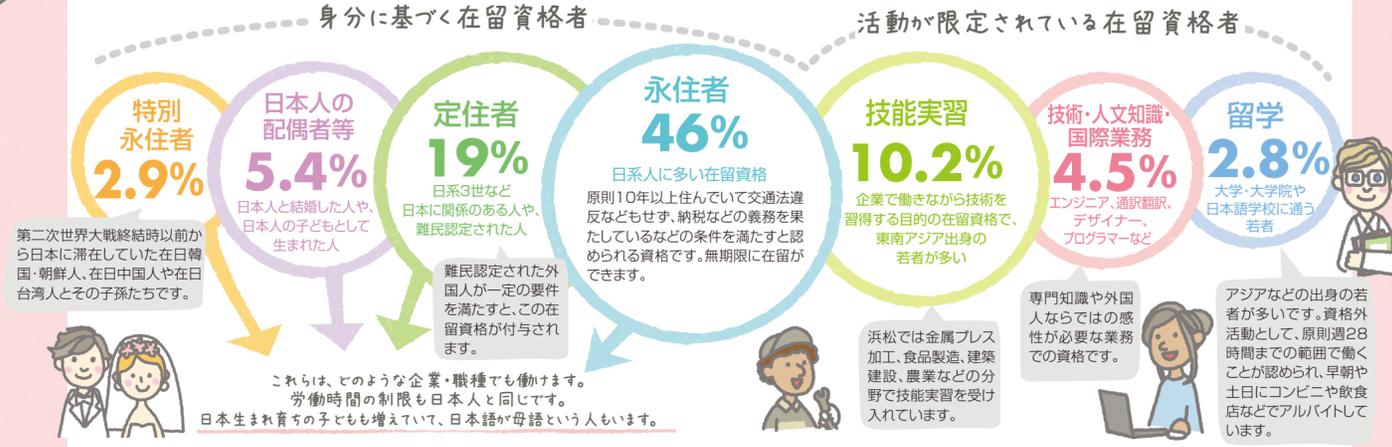


浜松在住の外国人は何人?

どんな理由で浜松に?

日本に滞在するには「在留資格」(理由・目的)が必要

—— 浜松には長期の滞在が可能な身分に基づく在留資格を持つ外国人の割合が高いです —— 2021年4月現在



外国人と話をするとき使えるのが、「やさしい日本語」です。

日本に暮らす外国人とコミュニケーションをとるには、英語などよりも「やさしい日本語」の方が、伝わりやすいです。

例えば...

- どちらのご出身ですか? → どの国ですか?
- どちらにお勤めですか? → 仕事はなんですか?
- お子さんはおいくつですか? → 子どもはなんさいですか?
- 皆様、本日はご多忙のところまでご参集いただきまして誠に御礼申し上げます... → みなさん、きょうは、きてくれてありがとうございます
- ご不明な点等ございましたらお申し出ください → わからなかったら、きいてください

.....「やさしい日本語」のコツ.....

- 敬語は使わない
- 熟語は使わない
- ゆっくり話す
- はっきり話す
- 手振り身振りを入れる、実物を見せる
- あいまい・遠回しなことは言わない

7 笑顔で話す

伝えようという気持ちが一番大切です!!



出前講座を利用するには…?



STEP 1 電話かメールで大体の内容をご相談ください。
[浜松市多文化共生センター]
TEL:053-458-2170
Email: info@hi-hice.jp

STEP 2 詳細を職員と打ち合わせをしてから申込書を提出。

内容に沿う講師が、打ち合わせで決まった日時に伺います。当日までの間に細かい連絡を取り合います。



このように、それぞれの国紹介を行い、最後は役員の方々とお机を囲んで和やかに話が弾みました。



地域の行事は、日本人の住民の方から声をかけてもらえると参加しやすいですね。



点在した小さな島国の集まりなので、観光は盛んですが資源はほとんどなく、技術もまだまだで物価も安く美しい国ですが、人は明るく元気いっぱい、親切心があつてとても温かいです。私はフィリピンの田舎の生まれ育ち。日本に来て戸惑うところもあるけど、どちらにも本当に好きです。

フィリピンは…

そして…



飯田町上組自治会

それぞれのお国紹介

災害時に協力し合えるかどうかは平常時の関係づくりがあるかどうかで決まると言います。人と人が顔を合わせて交流する機会を普段からつくるためにも、当センターのサービスをぜひご利用ください。出前講座、翻訳、通訳、イベント企画など、なんでもご相談にのります。



出前講座・文書の翻訳・いろいろ相談したい方 多文化共生センターへどうぞ

多文化共生センターに相談した自治会の方の声

防災訓練に参加してもらいました。(南区E自治会)

外国人住民の方は、お子さんは日本の学校に通っていただければ防災訓練をしていますが、親御さんは防災訓練を知らない人もいたので、ちらしをいろいろな言語に翻訳してもらったり、実際に地域の外国人グループに声をかけてもらって、防災訓練に参加してもらいました。当日は、初めて参加する外国人の方に優先的にAEDの体験などをしてもらいました。防災隊のメンバーも積極的に外国人の方に教えてくれました。

草刈りにたくさんの外国人住民に参加してもらえました。(西区O自治会)

草刈りの案内を、ポルトガル語やスペイン語に翻訳してもらいました。おかげで、たくさんの外国人の方に積極的に参加してもらえました。

ちらしを翻訳してもらって、お祭りに誘いました。(中区T自治会)

ベトナムから働きにきている若い女性が2人、アパートで暮らし始めたので、生活マナーなどを伝えたりしました。一番よかったのは、地域のお祭りのちらしを翻訳してもらい、彼女たちを誘ったら、とても喜んで参加してくれたことです。

まずはお気軽にご相談ください。多文化共生コーディネーターが対応します。

浜松市多文化共生センター TEL:053-458-2170

公益財団法人浜松国際交流協会(HICE)が市から受託して運営しています。 TEL:053-458-2170 FAX:053-458-2197 Email:info@hi-hice.jp 〒430-0916 浜松市中区早馬町2-1 クリエイト浜松4階 HP:https://www.hi-hice.jp/ Facebook:https://www.facebook.com/hice.jp/



企画した 役員の鈴木一志さんに



インタビュー!

今後はどのように発展させていきたいですか?

今日は地域防災イベントで交流会をしたいです

地域の防災訓練や防災イベントに外国人住民の方も誘って、日本人と外国人住民が交流する機会をもちたいです。コロナ禍で今は難しいですが、状況が収束したら、みんなで何かおいしいものを食べながら交流できるといいですね。今日教えてもらった、ブラジルやフィリピンのおいしいものも食べてみたいです。

今日はお話を聞いていかがでしたか?

人としての交流が楽しかった

外国の方の生の声が聞けてよかったです。今はテレビやインターネットでもいろいろな外国の文化紹介があるので、単に文化を知るだけならそれで充分ですが、やはり、実際に外国の方からお話を聞くと、人としての交流が生まれるきっかけになるので楽しいですね。

なぜ、ブラジルやフィリピンの講師を呼んでお話をしてもらおうと思ったのですか?

災害時のことを考えて、普段から外国人と日本人の交流を!

私は地域の防災隊長なのですが、防災のことを考えたのが理由の一つです。地域にはブラジルやフィリピンの方が暮らしていらっしゃいますが、普段はあいさつくらいであまり付き合いがない日本人住民も多いです。でも、災害が起こった時には、地域の避難所に外国人も日本人も同じ地域に住んでいる人ならだれでも受け入れていきます。そのときに、お互いが気持ちよく一緒に避難所生活ができるように、普段から交流をしていく必要があると考えました。

